

理解促進に向けた地域での取組みについて

1 意見交換会の実施概要

- ①目的 酒田市沖洋上風力発電について現状の検討状況について情報提供を行うとともに、洋上風力発電を契機とした地域振興について意見交換を行った。
- ②相手方 酒田商工会議所青年部、東北公益文科大学 学生
- ③実施日 令和6年12月13日（酒田商工会議所）、令和6年12月18日（公益大）

2 意見交換の要旨**① 洋上風力発電の全般 ⇒ 基本的な考え**

- 酒田市沖の運転開始は、早くても10年程度後だが、その頃は相当人口が減少していると思う。若者が地元に着し、帰って来たいようなコミュニティを作ること、人口減少に対して必要な施策である。それが無いと風車が回っているだけの人口の少ない街になってしまう。
- 国・県・市では、カーボンリサイクルポートやオーガニックビレッジなど様々な施策がなされているが、バラバラにやっているように感じる。洋上風力発電の地域振興は概念的な話にはなるが、一貫性を持って行ってほしい。
- 遊佐町沖と酒田市沖と別々の事業とはなるが、目指すところは同じで、経済圏も一緒である。そのため、両地域で相乗効果が得られるようにする必要がある。

② 電力の地産地消 ⇒（柱4）カーボンニュートラル社会の実現

- 地域住民が一番喜ぶのは電気料が安くなることだと思う。
- 地元企業、特に製造業では、電気をはじめとする物価高騰で経営が大変な状況である。何とか電力を安く使える仕組みがあるとよい。
- 季節や時間帯によっては、電気が余っているという話も聞く。余っている電力を地元で安く使えるという仕組みがあると喜ぶ人がいるのではないかな。
- 太陽光発電を設置して自家消費するオンサイトPPA、事業所のエネルギーマネジメント等を選定事業者から地元企業に提案してもらい、結果的に電気料金を安くする方法もあるのではないかな。
- RE100工業団地の説明もあったが、RE100を観光施設（日和山灯台等）でアピールしてはどうか。

③ 地域での人材不足 ⇒（柱2）未来を担う人材の育成

- 労働人口減少により当社ではオペレーターが集まらない状況である。特に夜勤となると更に深刻である。洋上風力の関連企業が来て地域が潤う反面、地元企業が雇用しにくくなり、地元企業が淘汰されることは無くさなければならない。
- 採択事業者には、住民生活に不可欠な既存事業を持続可能なものにするためにも、建設業の人材育成や、新技術の導入、発注の平準化等も提案していただきたい。
- 人手不足に対応することで地域を元気にしていくキーワードを地域振興策に上げていけばいいのではないかな。

④ 地域での人材育成 ⇒ (柱 2) 未来を担う人材の育成

- 新たな再生可能エネルギーのフィールドができ、プロフェッショナルの方も入ってくるのであれば、地域でのエネルギー教育にも携わっていただけないか。
- 小さい子供のうちからエネルギー教育を受けて、洋上風力を身近に感じていれば、将来その産業に携わりたいとなる子もいると思う。そのため、産業技術短期大学校や酒田光陵高校、小中学校と連携したエネルギーや環境教育も重要である。
- 就職を考え始めたが、鶴岡のベンチャー企業にも興味がある。新しいイノベーションがなされるところに魅力を感じている。
- 庄内には日本のロケット H 3 に部品供給をするような企業もある。学生の地元定着を増やすために、学生と市内企業との接点を増えていくとよい。

⑤ 地域のサプライチェーン構築 ⇒ (柱 3) 経済と環境の両立による地域産業の創出と強化

- 風車本体の製造では、山形県内で作れるものはほとんど無い。また、コンソーシアムに入るような大きな企業が、地元企業に直接発注する可能性も低いので、元請になるような企業にアプローチすることが重要だと考えるが、他海域ではここの解像度が低い。これはうちでできるけど、これは大手しかできないという棲み分けを勉強会的な形で進めていき、地元の解像度を高められれば面白くなるのではないか。
- 洋上風車建設による建設需要やホテル需要は一過性のものだと思う。維持管理で地元企業に関われないと中央にお金を持っていかれるだけになってしまう。

⑥ 観光振興・まちづくり等 ⇒ (柱 1) 安心して暮らせる地域づくり

- 将来的に本港地区に小型のクルーズ船が寄港することも想定される。そのため、臨港線の鉄道活用について地域振興策で行えないか。
- 地域の公共交通を担う人材も不足している。また、市内の観光地の回遊導線も弱いと思う。法的規制の課題もあると思うが、無人の自動運転バス等の検討はできないか。
- 洋上風力発電で電気を作るだけでなく、副産物的なものができるか。例えば、海中の支柱を活用したカキの養殖場や漁業関係者による遊漁船等はどうか。羽田空港や川崎の工業団地の海は釣りのスポットになっていて、結構全国から人が集まっている。
- マリンスポーツや最上川でのカヌー等のスポーツ産業も地域振興になると考える。秋田港の洋上風力も視察した際には、モノパイル付近に魚が集まっている動画も見たが、ダイビングスポットとしての活用もできるのではないか。
- 洋上風力のある景観や海を活用した遊覧船などを観光地の目玉にできないか。
- 酒田では学生も車社会になっていると感じている。免許返納者等がタクシーよりも安く移動できるような仕組みができないか。
- 夏に街歩きすると、歩道は路面が熱せられているので非常に暑い。街路樹を増やした方が、街歩きしやすくなるし、景観も良くなるのではないか。

3 今後の方向性

- 酒田市沖の洋上風力発電事業による地域づくりの方向性について、いただいた住民や地元企業等の声を反映させていく。
- これまでの酒田部会や住民意見交換会における懸念や不安の意見を参考にして、学習会等を行う。

地域（酒田市）の課題・方向性

急激な人口減少による地域力の低下

- ・ 2050年の酒田市の推計人口は61,224人（2024年10月末比 ▲3.3万人 ▲35%）
- ・ 地域等あらゆる領域での担い手不足
- ・ 消費人口の減少による地域経済の縮小

洋上風力発電を契機とした地域活性化

- ・ 人口減少の抑制、それでも豊かに安心して暮らせるまちの実現
- ・ 良質な雇用の創出、市民所得の向上

配慮した視点

採択事業者と連携した地域振興

- ・ 採択事業者のノウハウ・ネットワークを生かした連携

中長期的な地域振興

- ・ 海域占用期間30年間を見据えて、地域の将来像をイメージ

地域振興策の柱建て・キーワード（案）

洋上風力発電を契機とした地域活性化

1 安心して暮らせる地域づくり

- 沿岸部の地域行事の持続的な実施や賑わい創出
- 市内の遊休・未利用資産の有効活用
- 避難所等への電源供給
- 車不要の社会実現（次世代公共交通）
- 砂防林等の松枯れ対策

2 未来を担う人材の育成

- 成長産業（エネルギー関連産業など）で活躍できる人材の育成
- 地域資源を活かし、地域課題を解決できる起業家の育成
- SDGs達成に貢献できる農業者の育成

3 経済と環境の両立による地域産業の創出と強化

- 将来の浮体式洋上風力発電の拠点化
- リサイクル・未利用資源活用など環境関連産業の創出・拠点化
- 酒田産農産物・加工品などの高付加価値化及び販路拡大

4 カーボンニュートラル社会の実現

- 市内企業の再エネ電力の地産地消（地域新電力、RE100等）
- カーボンリサイクルに向けた二酸化炭素の再資源化（CCU）
- カーボンマイナスに向けた森林の保全・藻場の造成

検討経過

- ① 令和6年2月～3月
酒田部会の住民代表者との意見交換
- ② 令和6年3月～4月
市役所内部でたたき台の検討・協議
- ③ 令和6年5月
住民代表者や経済団体との意見交換
- ④ 令和6年6月
住民との意見交換会（7回）

地域振興策に寄せられた意見（抜粋）

- 洋上風力の経済波及効果について大きい期待がある
- 洋上風力では経済波及効果は生まれない
- 関連企業誘致・産業振興で若者雇用を増やして欲しい
- 地元で再エネ電力を安く使えるようにしてほしい
- カーボンニュートラル社会実現のために水素利用の勉強会を行い、これらの大きな動きにつなげたい
- 災害時等にも電気が使えるようになるとよい
- 地域の人材不足により地域コミュニティの維持が難しくなっている
- 地域では空き家問題や買い物難民も課題になっている

今後の方向性

- 酒田市の未来を担う若い世代の意見の反映に向けた意見交換の実施
- 当該意見交換での様々な声を反映
- 今夏の大雨災害の経験を踏まえた、地球温暖化対策や地域防災の観点の検討

地域の将来像と
地域振興策の深化

これまでの酒田部会で出された意見

I 地域メリットに期待する意見

項目	具体的な意見内容（要旨）
(1) 漁業・地域振興	・商工会議所にも、港湾関係、ロジスティックス、建設に関わるステークホルダーもいる。酒田に在る山形県唯一の商業港として最大限活用されることを願っており、また、地域や県が潤ってほしいという思いがある。（第2回・矢野委員） ・月光川水系には資源があるので、この資源を使い、南の方の赤川に、有望なふ化場を作り、我々ふ化事業者と、海面の鮭定置漁業者で共有した取組みがこれから進むことを期待している。（第4回・尾形委員） ・漁師をしながら、漁ができなくなるマイナスなどを、例えば洋上風力関連事業において補填やサポートを進めてもらえたら、自分としては大歓迎である。（第5回・阿部司委員） ・我々がよくなる、漁協がよくなる、漁業者がよくなる、水産業がよくなるということであれば、可能性を求めて追求していきたい。（第5回・西村委員） ・新たな働き口ができることによって、若い方の地元定着が少しでも増えればいいということだと思っている。少しでも若い方が地域に残っていただけるようにするため、新たな働き場、新たな事業が必要だと感じている。この洋上風力発電や関連産業が地域の新たな雇用の場になればいい。（第5回・林委員） ・洋上風力が配列よく建てられれば、景観に美しく調和する名所が生まれるものと期待できる。洋上風力事業者からは地域貢献策の一環として松原再生に取り組んでいただけることを願っている。（第5回・阿彦宮海自治会長）
(2) エネルギー供給	・これまでは、自分が海に出て、安全に操業する事だけを考えれば良かったが、孫のことも考えたほうがいいのかと、自然エネルギーについて考えるようになった。（第3回・田代委員） ・国内の風力発電の普及率はまだ 0.9%と書いてある。我々は、カーボンニュートラル、SDGs の観点でも活動しているが、風力発電を日本中どんどん増やしていけば、これらのためにもなるのではないかと。（第3回・阿部建治委員） ・カーボンニュートラルを考えると自然エネルギーに特化した発電が非常に良いと思っている。（第3回・阿部實委員） ・日本は資源国ではなく、資源を輸入に頼っている。戦争が始まった時にどうエネルギーを供給していくのか、となった時、自然エネルギーに頼るということは大事だと思っている。今コストがかかったとしても、最終的には安定した供給につながると期待している。酒田市沖に風力発電ができるのならば、我々の生活の安定に繋がっていくと思う。（第5回・佐藤善一委員）

Ⅱ 不安・懸念の意見

項目		具体的な意見内容（要旨）
(1)	漁業影響	・サクラマスと鮎、鮭はすべて最上川・赤川の河口から酒田沖に出ていく。内水面の漁業関係上重要魚種である鮎、鮭、サクラマスについて、配慮してほしい。（第2回・桂委員） ・風車が立つことによって、仕事をふさがれるので、我々漁業者が一番影響を受ける。今まで何にもないところに、風車が何本も立つわけなので、漁業者としては安心して海に出て、操業して、というのが一番の願いである。（第3回・田代委員）
(2)	環境・健康リスク	・風車が近くに建つことによる塩害はないのか。（第4回・渡部委員） ・庄内の海岸線はまっすぐな海岸線であり、どこに風車を建てても大体どこかからでも見える。可視範囲が非常に広がるので、その分影響は大きい。（第4回・松山委員） ・反対する一番の理由は騒音や低周波被害。もし健康被害があったときに、誰が責任を取るのかを聞いても「業者が」としか言わない。まだ事業者も決まっていないのに「そうならないようにする」としか言わない。誰が責任を取るのか曖昧なまま、いい話だからとして進めると、健康被害が発生したらもみ消されて終わるような気がする。（第5回・齋藤委員） ・どのぐらいのものが、どういうふうに建つのか、はっきりと知りたいという声がある。（第5回・阿部実委員）
(3)	安全対策	・海難事故の発生は全くゼロとは言い切れない。一度大きな船が事故を起こし、洋上風力発電が原因と言われると大変なことになりかねない。自然相手で難しいとは思いますが、十分気を付けた対策をお願いしたい。（第2回・鈴木勝委員） ・地震、津波により風車が折れると、思わぬ2次災害、3次災害につながるのではと心配している。（第5回・奥山委員）

令和 6 年 6 月の住民意見交換会で出された意見

I 地域メリットに期待する意見

項目		具体的な意見内容（要旨）
(1)	雇用創出、地域経済の活性化	・酒田共同火力発電の事業終了後、洋上風力発電事業が地域の雇用の受け皿となることを期待する ・中心市街地の復興を合わせて検討されたい。酒田活性化の手段として期待している。 ・洋上風力事業による関連企業誘致を行い、若者の雇用の場を創っていただきたい。 ・地元への電力還元や雇用拡大など、地域への還元利益の内容と経済効果を知りたい。 ・地域新電力会社により、気候変動に強いまちづくりはできないものか。 ・洋上風力関連の研究機関誘致やトレーニングセンター設立を希望。 ・風車を活用した観光事業やプロジェクションマッピングなどに期待。
(2)	税収	・市の税収向上への期待。

II 不安・懸念の意見

項目		具体的な意見内容（要旨）
(1)	環境影響	（騒音、低周波（音）への懸念） ・低周波音による健康被害や睡眠障害を懸念。 ・騒音被害が想定以上に拡大する可能性に不安がある。 ・健康被害が発生した場合の補償や対応について不透明である。 （生態系への影響） ・鳥類へのバードストライクや海洋生物への影響に不安。 （景観への影響） ・鳥海山や日本海の自然景観への影響があるのでは。 ・観光資源である夕日の眺望が損なわれることに懸念がある。
(2)	安全対策	（地震・津波への懸念） ・地震や津波によるブレード破損や風車倒壊の不安がある。 ・海底活断層の調査、評価を踏まえて計画すべきである。
(3)	漁業への支障	・振動により魚類の産卵や漁業に悪影響があるのでは。 ・漁業者の生計に悪影響が出ることや、廃業することを懸念している。
(4)	合意形成方法	・説明不足 ・住民の声が十分に反映されていないのでは。
(5)	エネルギー政策	・ゼロカーボン達成の実効性や再エネ推進の必要性に疑問。 ・再エネ賦課金による電気料金上昇を懸念している。